

2020年3月期（第23期）

第1四半期決算概要

（補足説明資料）

2019年8月9日

株式会社バイ・テクノロジー

将来見通し等について

将来見通し

本資料に記載されている当社の計画、戦略、見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待、見積、予想に基づいています。これらの期待、見積、予想は、経済情勢・市況の変化、競争環境の変化、顧客のある国の政策変化、係争中及び将来の訴訟の結果など多くの潜在的リスク、不確実な要素、過程の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる結果となる可能性があります。

従って、これら将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えて頂きますようお願いいたします。また、当社は新しい情報、将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

為替リスク

当社の主力製品である、フラットパネルディスプレイ製造装置の輸出販売は、原則円建てで行われております。一部に外貨建て決済もありますが必要に応じて受注時に為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしております。従って、装置販売に関する為替レート変動による影響は軽微であります。

数字の処理

記載された金額は、単位未満を切り捨て処理、比率は単位金額で処理した結果を四捨五入している為、内訳と一致しない場合があります。

決算概要

業績ハイライト

- 売上は、中国の大型FPD新工場向けで出荷されたCF*露光装置等の販売が伸長し、前年比で22%の増加。
- 営業利益は、販管費増加も、売上増および検査関連装置の利益率改善により、前年比で36.2%の増加。
- 受注/受注残は、中国の大型FPD関連投資が一巡し伸び悩み。

*CF=カラーフィルター

	19年3月期 Q1累計		20年3月期 Q1累計		増減率
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	
売上高	15,501	100.0%	18,910	100.0%	22.0%
売上総利益	4,846	31.3%	6,502	34.4%	34.2%
営業利益	2,733	17.6%	3,721	19.7%	36.2%
経常利益	2,834	18.3%	3,676	19.4%	29.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,981	12.8%	2,283	12.1%	15.2%
受注金額	14,861	—	5,344	—	-64.0%
受注残高	114,997	—	77,369	—	-32.7%

(参考) 装置別連結売上高

■ 製造装置分野

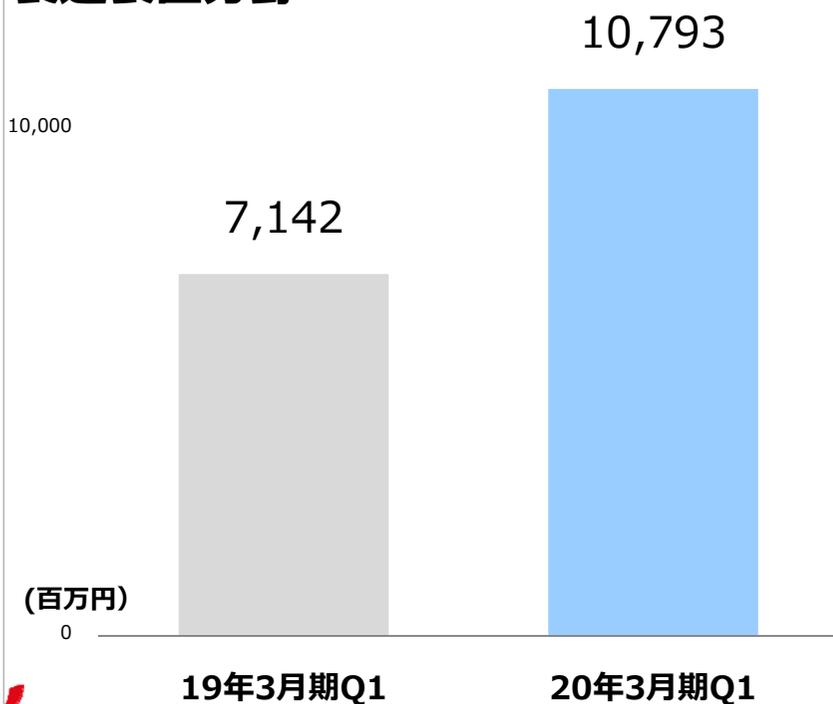
- CF露光装置は大幅増、光配向露光装置もやや伸長し前年比51%増。

■ 検査装置分野

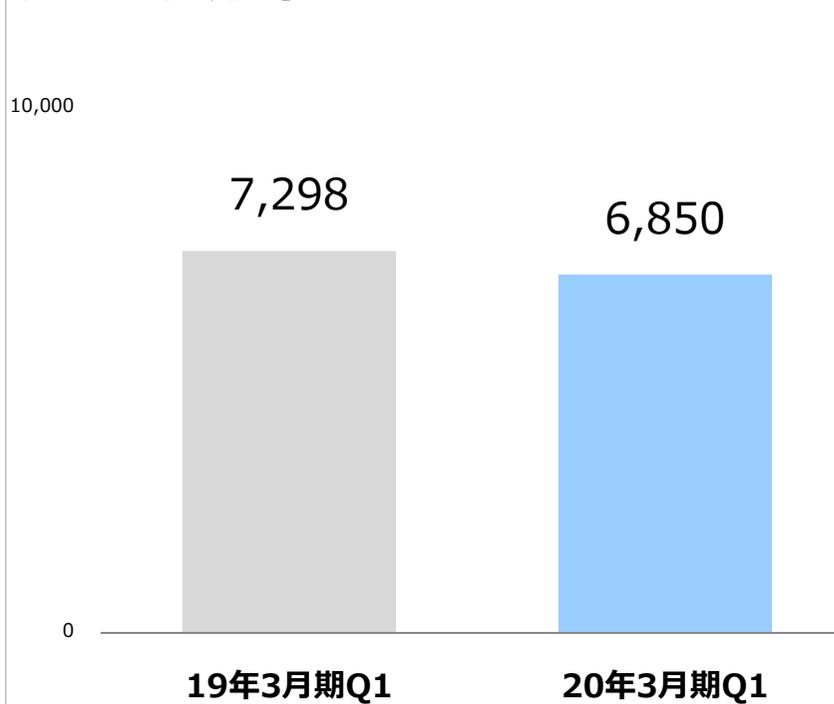
- フォトマスク用検査関連装置(修正装置等)やCF用修正装置が増加も、中小型用途が減少し前年比6%減。
 - ◆ 画像検査装置のシェアはやや減少。
 - ◆ 修正装置は、TFT*用が前年比で横ばいもフォトマスク用およびCF用が寄与。

*TFT=Thin Film Transistor

製造装置分野

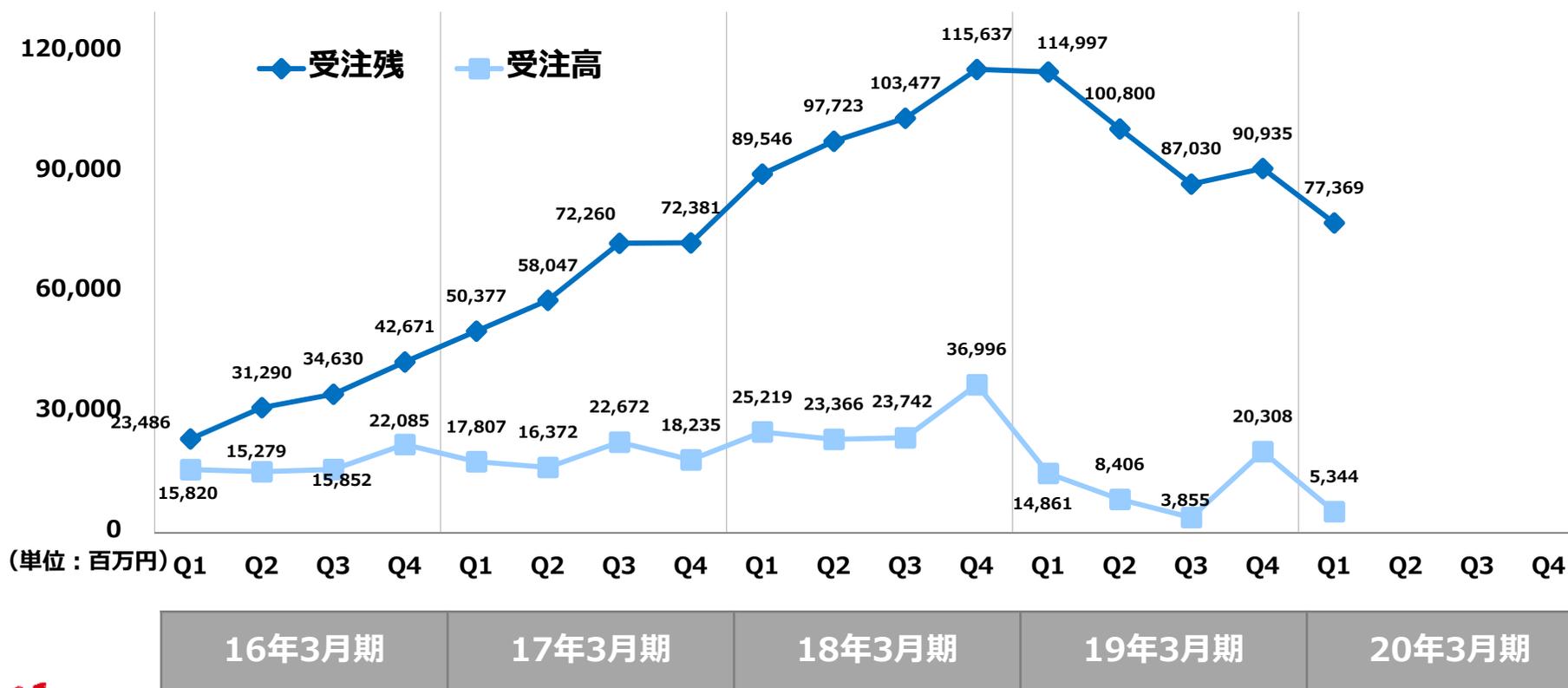


検査装置分野

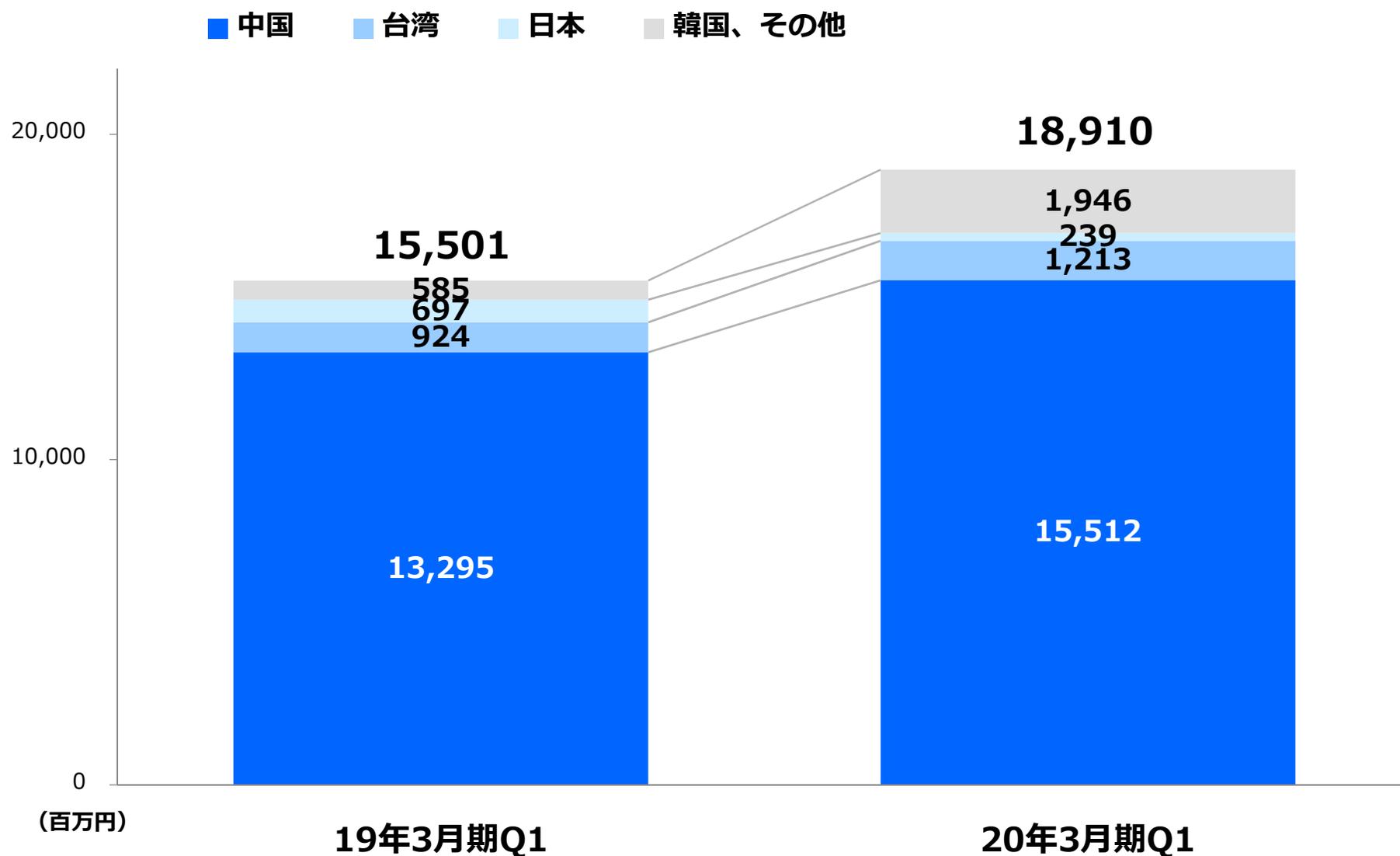


連結受注残・四半期連結受注高の推移

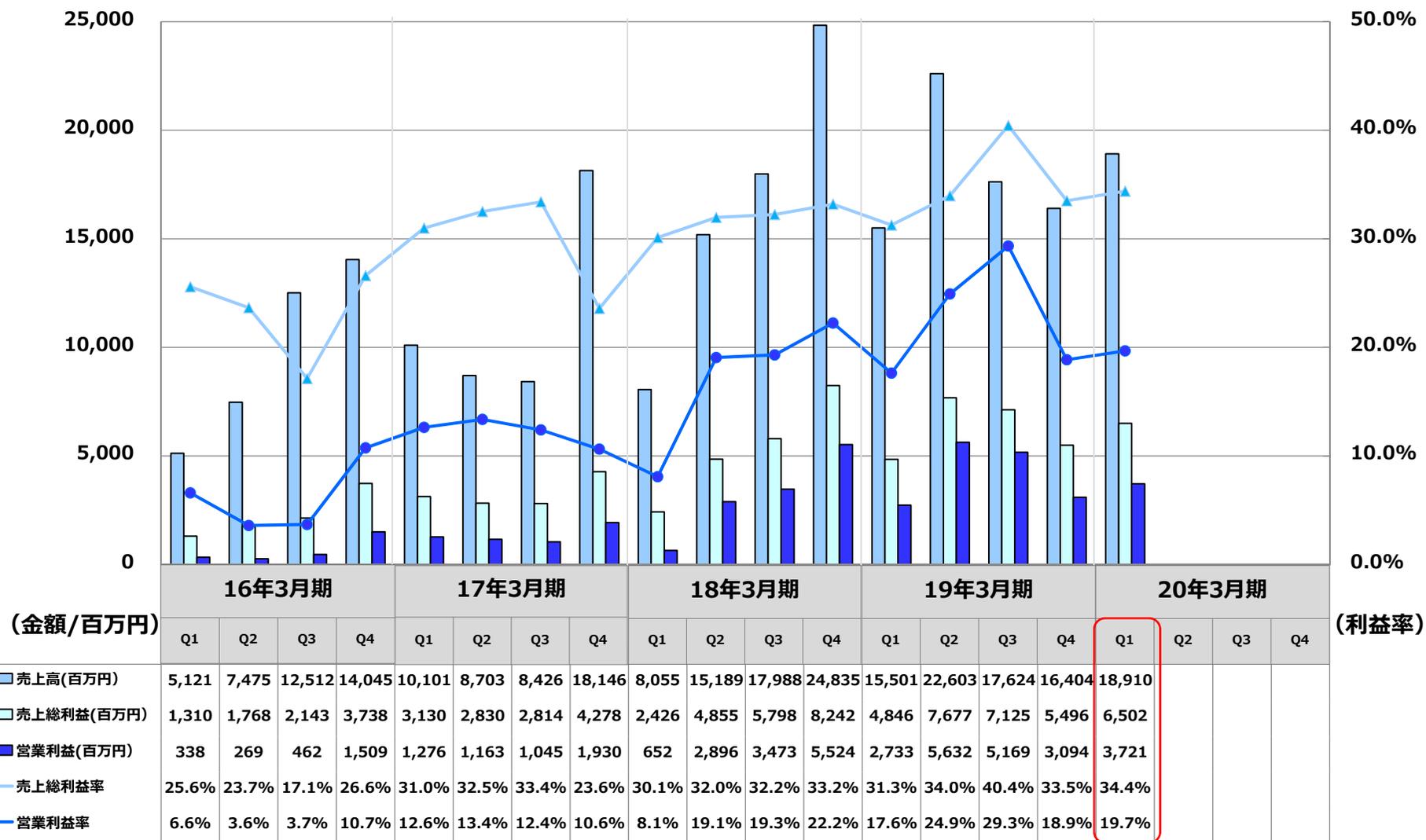
- 受注高は、中国の主要パネルメーカーによる大型FPD関連の投資が低迷し前年比で64%減。
- 今期受注について、中国のTV用OLED投資計画等の具体化、及び、新製品開発の進展が鍵に。



地域別連結売上高（前期比）



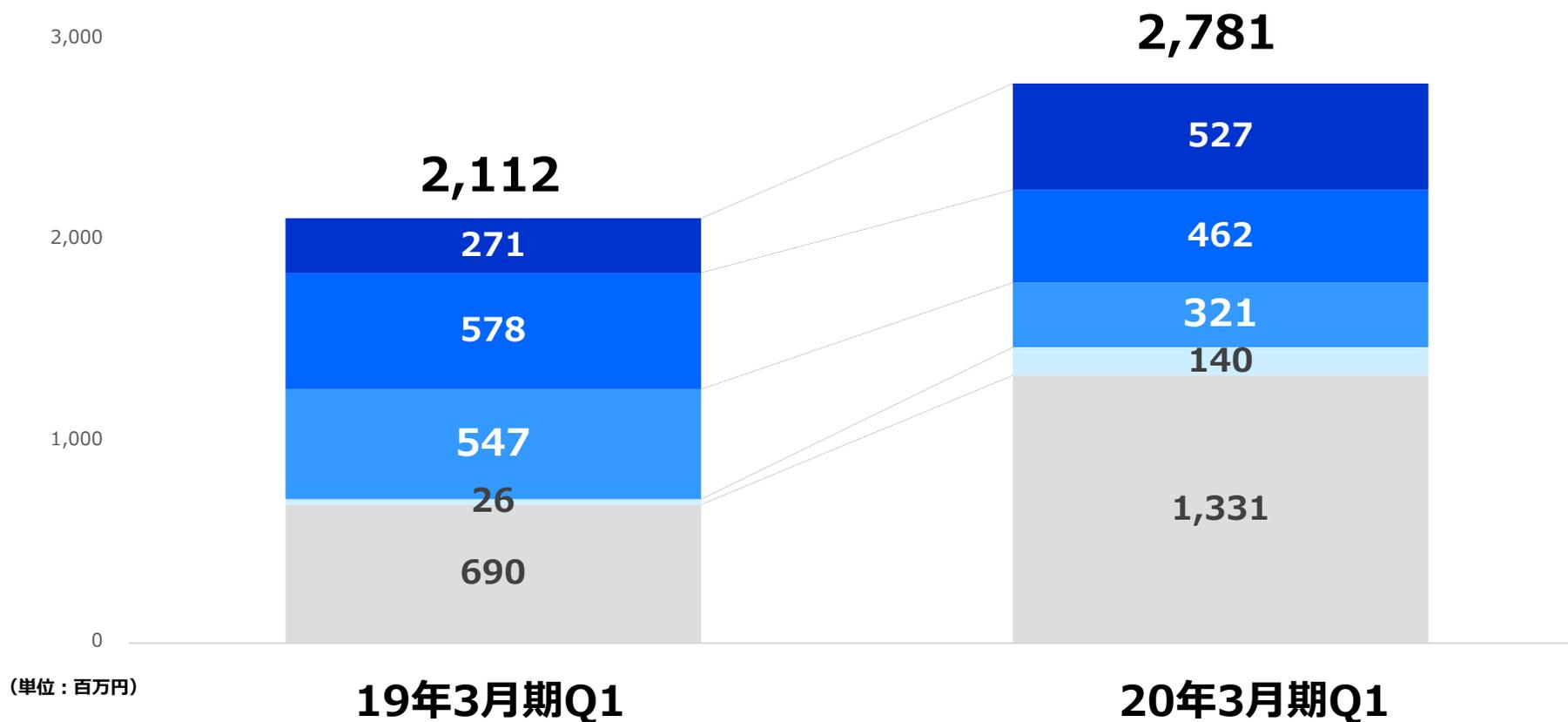
四半期毎連結売上高・利益の推移



販売費及び一般管理費（連結）

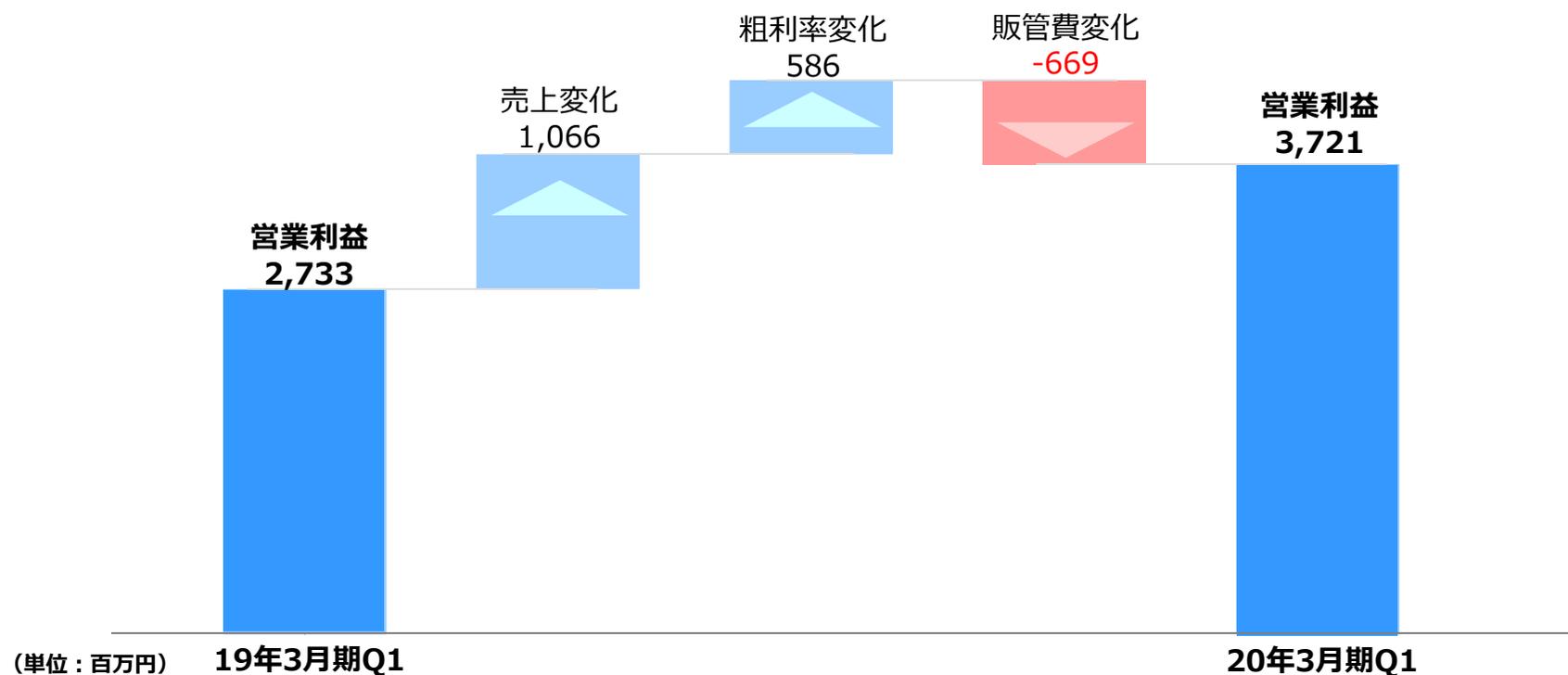
- 販管費は、新製品関連の研究開発費の増加および製品保証引当金の増加等により、前期比で31.7%の増加。

■ その他 ■ 製品保証関連費用 ■ 発送費 ■ 人件費 ■ 研究開発費



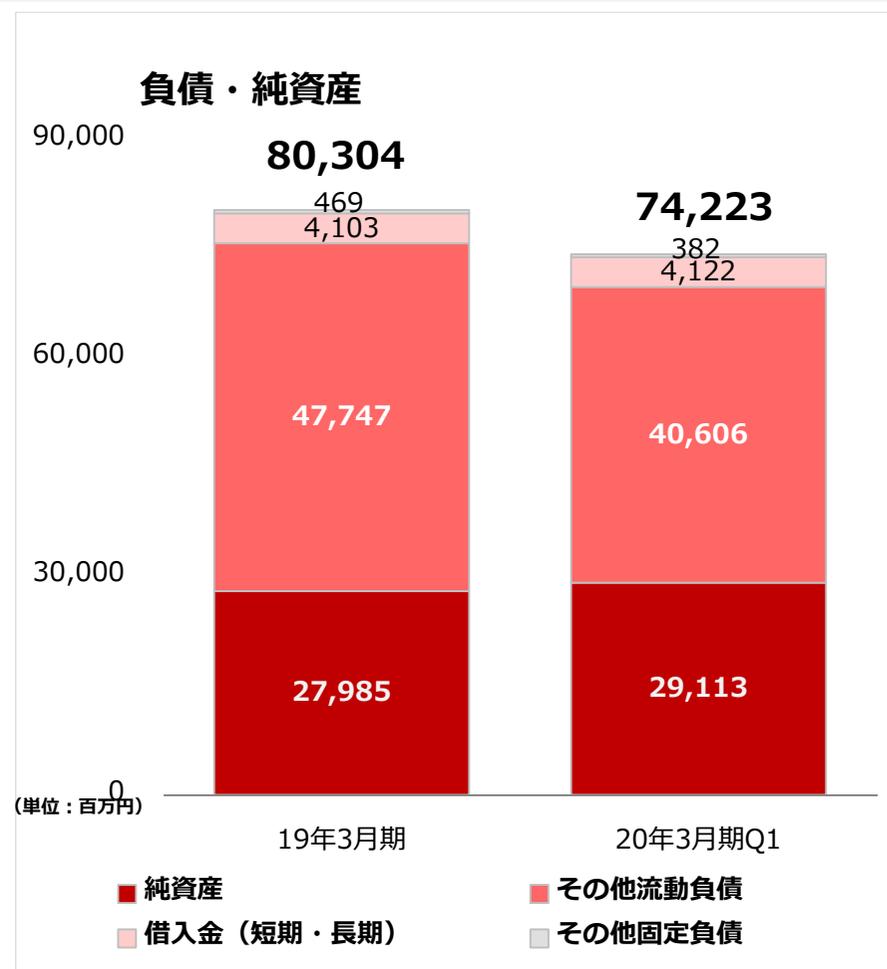
連結営業利益の差異分析

- 売上の変化：前年比で22%の増加。主にCF露光装置(製造装置分野)が寄与。光配向露光装置もやや増加。
- 粗利率変化：粗利率は前年比で3%の増加。CF露光装置および修正装置が寄与も、画像検査装置(検査装置分野)及び光配向露光装置(製造装置)の利益率が低下。
- 販管費変化：研究開発費、製品保証引当金が主に増加。



連結貸借対照表

- 総資産：現預金が43億円減少し、前期末比60億円の減少。
 - 現預金の減少は、買掛金、法人税の支払い等による。
- 負債：前受金、未払法人税等が減少し、前期末比72億円の減少。
- 純資産：利益剰余金が増加し、前期末比11億円の増加。



業績見通し

2020年3月期の業績および配当予想

- 2019年5月13日発表内容から変更無し。

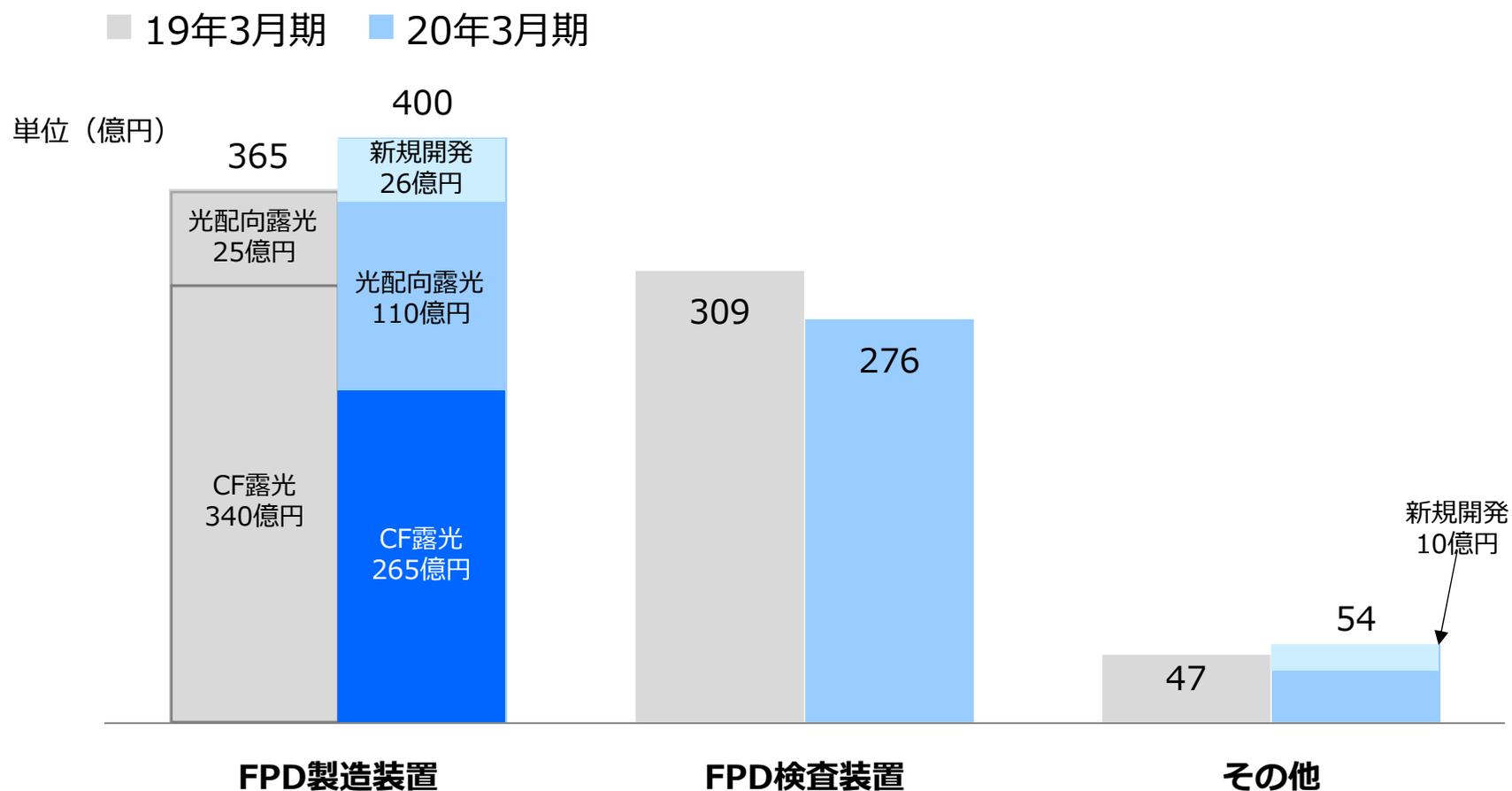
	19年3月期(実績)		20年3月期(予想)		変化率
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	
売上高	72,132	—	73,000	—	1.2%
営業利益	16,628	23.1%	13,000	17.8%	-21.8%
経常利益	16,767	23.2%	12,850	17.6%	-23.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	10,901	15.1%	7,800	10.7%	-28.5%
EPS	2,217.48円		1,613.30円(分割前) 806.65円(分割後)		19年6月1日 より2分割

配当について

FY20(分割後)	中間配当 : 80円 (予想)	期末配当 : 80円 (予想)
(参考) FY19	中間配当 : 160円 (実績)	期末配当 : 160円 (確定)

(参考) 2020年3月期 連結売上予想の内訳

■ 2019年5月13日発表内容から変更無し。



トピックス

合併会社CHVT社(咸陽虹微新型显示技术有限公司)について

- 7月31日に合併会社設立契約に調印。CHVT社は、中国最大の国有企業の一つであるCECグループで大型OLEDの開発を担う。

➤ CHVT社

- ◆ 資本金と出資割合：資本金186百万RBM(日本円換算で約30億円)、当社32.4%、CHOT社67.6%。
- ◆ 設立の目的：OLED技術を用いた大型FPDの開発、および有機EL照明の受託生産等を計画。
- ◆ 所在地：CHOT工場敷地内(中国陝西省咸陽市秦都区高科一路1号)。
- ◆ 董事長：CHOT社董事長の陳忠国氏が兼任。

➤ 当社出資の背景

- ◆ 当社の有機EL照明事業の中国市場での成功とCHOT社の大型OLED量産への貢献を目指し出資。
- ◆ CHVT社の新型ディスプレイ開発および有機EL照明生産に協力。当社100%子会社のルミオテック社も同社を技術面で支援予定。

➤ CHOT社(咸陽彩虹光电科技有限公司)

- ◆ 中国电子信息集団(CEC)と中華系の大型ガラス基板メーカーである彩虹集団(Irico)による合併会社。G8.6世代ガラス基板対応、月産120Kの最新鋭大型FPD工場を、陝西省咸陽市に保有。
- ◆ 咸陽市の経済と地域産業の発展を担う基幹工場として、2015年11月に設立。
- ◆ 将来的にはCHVTとテレビ用OLEDの量産を目指す。

➤ CEC(中国电子信息集団)グループ

- ◆ CEC(中国电子信息集団)は、18年売上が2170億RBM(円換算で約3兆4千億円)、電子・情報分野で複数の事業グループを傘下に持つ、中国最大の国有企業の一つ。
- ◆ グループのFPD事業を担うグループ子会社に、CEC pandaグループ(南京/成都)、CHOT社(咸陽)、IRICO(FPDガラスメーカー)等がある。

